

中期経営計画

〈計画期間〉
2018年4月～
2021年3月

ネクストバリュー
NEXT VALUE

～お客さま・地域との共通価値の創造～

目指す姿

未来への変革に挑み、お客さま・地域との共通価値を創造(CSV)[※]する銀行

※ CSV : Creating Shared Value

基本方針

- 地元への積極的な資金供給による地域経済の活性化
- 本業支援とコンサルティングを通じたお客さま本位の業務運営

● 基本戦略

営業力
強化戦略

法人営業 課題解決や本業支援を通じたお取引先の企業価値向上
個人営業 お客さま本位の業務運営と効率的なリテール営業の実践
地方創生 地域の活力を創造する地方創生の推進
FinTech 外部連携の強化やデジタルイノベーション技術の活用により顧客利便性を向上

生産性
向上戦略

業務効率化 従来の「やり方」や前例踏襲の「考え方」から脱却して生産性を向上
店舗再整備 マーケットや環境変化を踏まえたチャネル最適化と経営資源の再配分
働き方改革 限られた時間の中で成果をあげる創意工夫、働きやすく、働きがいのある職場へ

経営力
強化戦略

市場運用 総合損益を重視し、柔軟にポジションをコントロール
コンプライアンス 強固なコンプライアンス態勢の維持・向上
リスク管理 リスク管理体制の高度化
ガバナンス 企業価値の向上へ向けたガバナンス体制の充実・強化

● 計数目標

	2020年度
中小企業向け貸出金残高	2,500億円
投資信託残高	435億円
非金利収益比率 [※]	12.6%
当期純利益	7億円程度

※非金利収益比率=役員取引等利益÷(業務粗利益-国債等債券関係損益)

● ごあいさつ

平素より私ども鳥取銀行に対しまして格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。このたび、2019年度の決算概要や最近の取組みなどについて紹介する「とりぎん通信／2020ミニディスクロージャー誌」を発刊いたしました。ご高覧のうえ、ご参考にしていただければ幸いに存じます。

さて、2019年度の国内経済は、世界経済の減速を背景に輸出や生産活動が弱含んだ一方で、内需の堅調さと雇用・所得環境の改善を主因に、年内は緩やかな回復基調が続きました。

しかし、年明けから流行した新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、景気にも大きな影響が出ているなど、今後も状況を注視していく必要があります。

次に金融市場では、緩和的環境のもと日経平均株価は一時2万4千円台まで上昇しましたが、「コロナショック」を受け3月中旬には1万6千円台まで急落しました。その後、世界各国の金融財政政策を背景に、年度末には1万8千円台後半まで回復したものの、依然として不安定な相場環境が続いています。また、政府は、新型コロナウイルスの影響により売上が減少した事業者等に対する資金繰り支援として、実質無利子・無担保の融資を導入したほか、事業継続のための給付金等の支援策を打ち出しましたが、中小企業や小規模事業者を中心に倒産の増加が懸念されるなど、予断を許さない状況となっています。



取締役頭取
平井 耕司

このような環境の下、当行は中期経営計画「NEXT VALUE」に取組んでおります。「営業力強化」と「生産性向上」の両立により「収益力の強化」を図るとともに、「顧客本位」のビジネスモデルを実践することにより、「未来への変革に挑み、お客さま・地域との共通価値を創造する銀行」を目指してまいります。

今後とも皆さまの信頼とご期待にお応えできるよう全役職員が一丸となって努力してまいりますので、一層のご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2020年6月



SDGs(持続可能な開発目標):SDGsとは、2015年「国連持続可能な開発サミット」において採択された「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」のなかで、人間、地球および繁栄のための行動計画として掲げられた17の目標と169のターゲットからなるものです